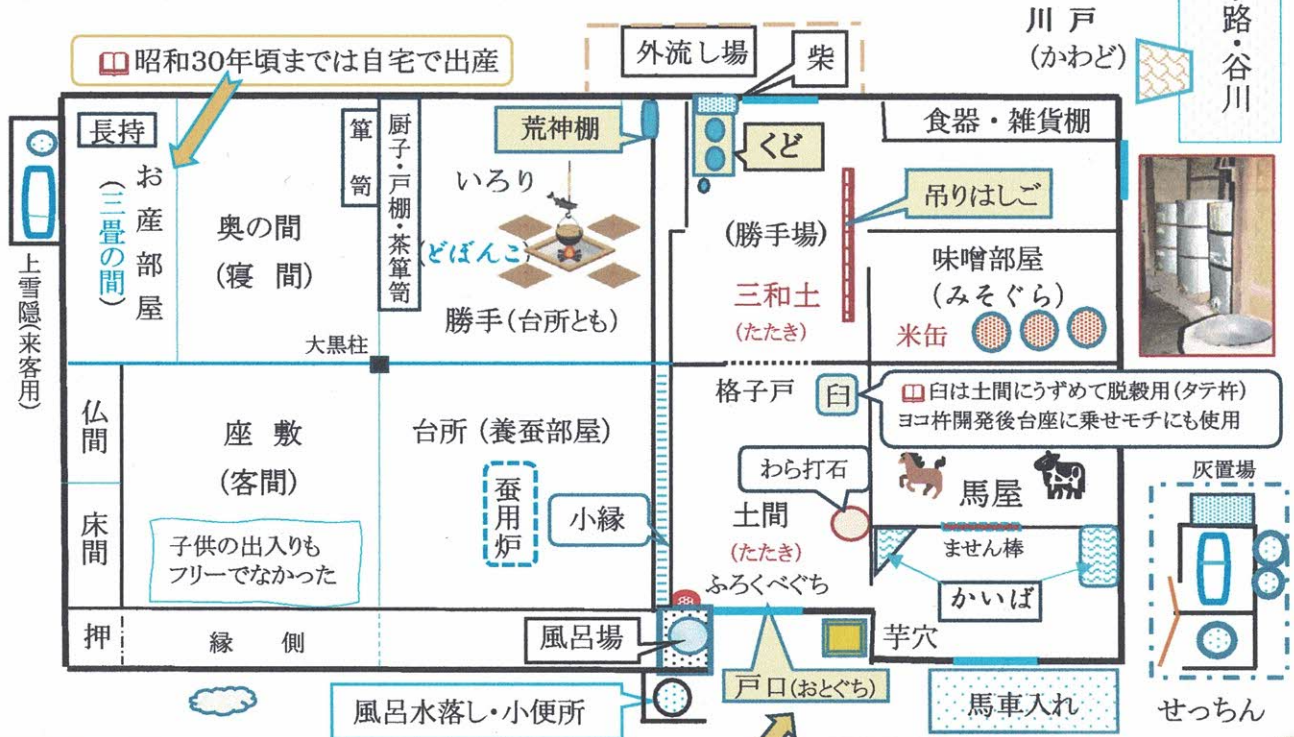




農家 の基本的な間取りが定着したのも明治時代と言っていいでしょう。まだ現役である。明治42年、木遣り節を唄いながらの地づきが始まったことは前号で紹介の通り。

その頃から牛馬と一緒に暮らす母屋の代表的な間取りが出来あがってきたようである。

農家の代表的な間取り (明治末～昭和初期)



「玄関」は仏教用語で2000年の歴史があるが、江戸期は寺院や武家屋敷で使用。庶民は戸口(おとぐち)で玄関呼ばわりは最近



機能性に優れた構造と間取り

- 当時は電気・ガス・水道も無かったが“夢のマイホーム(文化住宅♥)”であった。
- 農繁期には終日作業着のまま部屋に上がることなく食事が出来る勝手場の配置。
- 農閑期にはワラ仕事や翌年の準備作業ができる広い土間(たたき)にワラ打ち石と脱穀用白。
- 芋穴は暖・みそ蔵は涼と食料の長期保存に最適な位置に配置。
- 部屋割りは「表側に座敷と養蚕部屋:裏側に寝間と勝手(台所)」の4部屋が定番。
 - ・日当たりや風通しもよく暮らしに最適の南側二部屋は「おかいこさんと来客・先祖」用。
 - ・「先祖崇拝」の思想は江戸時代中頃から広まった。(後日お墓の頁で話題)
- 中二階(天井裏)は薬物や薪など湿気を嫌うものの保管に利用。
 - ・木の曲がりを利用した「つり鍵」やすぐおろせる「吊りはしご」はまるで忍者屋敷♥であった。
- ⑧ 三和土(たたき):土・消石灰・にがりの3種類をまぜて固めた土間用の土を言う。
- 昔は空っ風(季節風)が強く地蔵尊から西の土地には2階建てが禁止されていたので、中二階と呼ぶ天井の低い空間を作り保管場所とした。
- ?ふしぎ?と云えば鍵をかける慣習が無く何時誰でも出入りできた? 今思えば全く不用心であったが良き時代であったのでしょう。

右側小用に扉付きは高級雪隠



(吊りはしご)



(つり鍵)

(天井裏・中二階)

◆今では死語となっている呼名も多く時代の推移を感じますが如何ですか